

# 認定こども園 のだのこども園

## 2020年度 公開保育 評価

【公開保育実施日】全10回（令和3年2月8日時点）

4月15日(水)、5月7日(木)、6月16日(火)、7月13日(月)、8月21日(金)、  
9月10日(木)、11月19日(木)、1月21(木)、2月16日(火)、3月17日(水)

【評価者】 相馬 靖明先生(和泉短期大学児童福祉学科・准教授)

【参加者】 園長:加藤裕希、全体主任:大野亜紀、各クラス担任

### 【内容】

2020年度

0歳児～4歳児までの保育を見て、「保育の内容」・「保育環境」・「園児の様子」・「保育者の姿勢」等を評価する。開園して約2年弱となるが、これまでに改善・成長できた点や、改善点等を評価する。

#### <評価の観点>

「保育所保育指針」、「幼児期にふさわしい生活の展開」、「遊びを通しての総合的な保育」、「1人1人の発達特性に応じた指導」、「主体的に活動できるような環境構成」、「指導計画」等。

### 【評価】

#### <0歳児>

##### ●特に良と思う点

食事・睡眠・遊びのスペースを安定的に運営できるようになった。

遊びスペースとしての、室内と屋外とをつなぐテラス部分の環境構成について、子どもの成長（運動機能など）に合わせた変更を意識的に行えるようになった。

##### ●さらなる改善が望まれる点

月齢の移行に合わせた1歳児スペースとの連動や担当者間の連携。

#### <1歳児>

##### ●特に良と思う点

生活（特に食事）スペースと遊びスペースのレイアウトなど、子どもの成長に合わせた環境構成ができるようになった。

●さらなる改善が望まれる点

月齢の移行に合わせた、他の年齢スペース（主に2歳）との連動や担当者間（主に0歳）の連携。

<2歳児>

●特に良と思う点

他の年齢スペースに比して狭小な保育室スペースだが、連続するテラスなどを活用して活動の展開を図ったり、ランチルームの運用の際に保育者間の連携を向上させたりといった工夫に取り組んでいる。

●さらなる改善が望まれる点

子どもの活動範囲の広がりに応じた、他の年齢担当者（主に3歳）との連携。

<3歳児>

●特に良と思う点

発達の時期にふさわしい遊びを誘い出す働きかけを意識した環境（特に保育室の環境）構成が多様になった。

●さらなる改善が望まれる点

遊びの状況を捉え、経験の幅を広げる必要がある場合の具体的な働きかけ。

<4歳児>

●特に良と思う点

発達の時期にふさわしい遊びを誘い出す働きかけを意識した環境（特に保育室の環境）構成が多様になった。

●さらなる改善が望まれる点

遊びの状況を捉え、経験の幅を広げる必要がある場合の具体的な働きかけ。

【評価者コメント】

次年度は0～5歳児の各クラスがフルにいる状況になる。

今年度の経験を活かしつつ、特にスペースの使い方についての情報共有を丁寧に行うことを重点として取り組んでいただきたい。

【評価を受けての園としての自己評価（改善策など）】

開園初年度は0～3歳児、評価を受けた2年目は0～4歳と徐々に在園児数・学齢が増えてきた。職員や子ども達の意識を緩やかに変容させながら、各年齢ごとの生活の流れや生活環境を整えてきた背景がある。

特に、横割りと言われる年齢ごとの設定保育から、個々の特性や生活環境にあわせた子ども達ひとりひとりが心地よいと感じられる生活リズムと、遊びのなかで想いを発露でき

る子ども主体の園生活の実現を目標にしてきた。

開園初期は、保育者の計画に沿った形で生活を構成する意図が強く、「子どもたちの姿」と「保育者（大人）の意図性」のバランスに悩んでいる姿があった。それを、日々のドキュメンテーション（姿の読み取りと可視化）や時間の経過とともに信頼をよせてくれる子ども達との共同生活のなかで、子ども達の想いをくみ取れる保育環境に近づいてきたと実感している。

相馬先生からの評価にある通り、広い保育環境のなかで、子ども達がじっくりと意図性を持った遊びの展開を継続できたり、安心して生活できる環境を構築するために、保育者間での対話を重ね、スペースの構成の精度をあげることを実現していきたい。

また、2021年は開園3年目になり、はじめての5歳児を迎え、120名近い大集団になる本園である。今後は、保育者と子どもとの関係だけでなく、年齢を超えた子どもと子どもの共同性なども保育者が意図をもって構成することで、「学びあい」の生活を実現していきたいと考えている。コロナ禍ではあるが、遊び、食事、生活（誕生会など共同性を感じることのできるイベント）など、園として交わる機会を設けていきたい。

加えて、子ども主体の保育を実践するなかで、生活経験のばらつきなど、年齢に応じた姿なども丁寧に読み取りながら、保育計画に反映することを計画している。

最後に、開園2年目からコロナ禍になり、保護者の方との連動も希薄になりがちなため、感染対策をしながら、保護者の方（親子）とのワークショップなどを定期的で開催することで、包括的な「子ども達をみんなで見守る」体制を構築していくことも目標としている。